



ジーザス・イン・デイズ・ニールランド

ポストモダンの宗教、消費主義、テクノロジー

デイヴィッド・ライアン [著] / 大畑凜、小泉空、芳賀達彦、渡辺翔平 [訳]

ようこそ、スピリチュアル・テーマパークへ

◆四六判・336頁・本体3500円

近代化による宗教の退潮を唱えた世俗化論は、長らく宗教研究の基盤となってきた。しかしいま、デイズニールランドに象徴されるポストモダンの情報・技術・消費社会において、従来の制度や組織を超えた多様な宗教的営為が開花している。そのメカニズムを分析、宗教社会学の新たな枠組みを模索しながら自らのキリスト教的倫理をも開示する、監視社会論の泰斗による異色作。

デイヴィッド・ライアン (David Lyon)
1948年生まれ、カナダ・クイーンズ大学教授、社会学者。監視社会論で世界的に知られるほか、キリスト教信仰に基づいた社会倫理と社会学的分析を結合させた独自の研究を行う。著書は監視社会論、ポストモダン論、情報社会論など多岐にわたり、邦訳に『監視社会』(河村一郎訳、青土社、2002年)、『9・11後の監視——〈監視社会〉と〈自由〉』(田島泰彦監修、清水知子訳、明石書店、2004年)、『監視文化の誕生——社会に監視される時代から、ひとびとが進んで監視する時代へ』(田畑暁生訳、青土社、2019年)などがある。

【目次より】

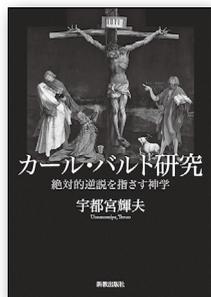
- 序章 出会う
 - 第1章 デイズニールランドでイエスに
 - 第2章 信仰の運命
 - 第3章 ポストモダンのきざし
 - 第4章 時のしるし
 - 第5章 自己を買い求めて
 - 第6章 グローバルな聖霊
 - 第7章 短縮する時間
 - 第8章 信仰の未来
- 訳者解説

カール・バルト研究

絶対的逆説を指さす神学

宇都宮輝夫 著

◆ A5判・314頁・定価3600円



聖書解釈学という切り口からバルトを読むと見えてくるものは何か、弁証法やアナロジーを通して浮かび上がるバルトの福音理解とはいかなる特徴を持つのか、また神学史家としてのバルトの慧眼の秘密はどこにあるのか。

バルト神学の本質に迫る、著者の半世紀に及ぶ研究の総決算。

著者うつのみや・てるお氏は1950年生まれ。北海道大学、同大学院で学ぶ。1996年—2015年、北海道大学教授。2017年より北海道千歳リハビリテーション大学教授。専門はキリスト教学、宗教学、死生学。著書に『生と死の宗教社会学』（ヨルダン社）、『宗教の見方』（勁草書房）、『生と死を考える』（北大出版会）など。

【目次より】

第1章 バルトの聖書解釈学、そして聖書と啓示

- 第1節 『ローマ書』の解釈学
- 第2節 聖書と解釈学：『教会教義学』第3章を中心に
- 第3節 次章に向けて：真の弁証法と偽の弁証法

第2章 バルト神学の連続性と発展

- 第1節 課題と方法
- 第2節 弁証法と類比：その存在論
- 第3節 類比と弁証法：その認識論
- 第4節 連続性と発展

第3章 バルトの近代神学史理解

——近代神学への転換をいかに理解するべきか

- 第1節 歴史の見方
- 第2節 バルトの近代理解
- 第3節 近代の科学的理性と宗教

● 好評の関連書

名著の新訳！

教義学要綱【ハンディ版】

カール・バルト著、天野有・宮田光雄訳

戦後間もないボン大学で、敗戦に打ちひしがれるドイツの学生たちに語られた、使徒信条に基づく教義学の入門講義。バルト神学の巨大な世界を凝縮して示すのみならず、あらゆる人々に神学の魅力を存分に伝える名著を、最新の研究に基づく新訳で贈る。 ◆小B6判・本体20000円



ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下

マタイマルコルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価8500円

山下壮起・二木信編著

ヒップホップ・アナムネーシス

ラップ・ミュージックの救済

衝撃作『ヒップホップ・レザレクション』の続編登場。気鋭の執筆陣による論考・エッセイ・小説・BLMと共闘する黒人牧師の説教に加え、日本で活躍する6名のラッパーのインタビューを収録。

A5変型判・予価2500円

佐々木栄悦著

神の恵みの水路

現代に問いかける
「ローマの信徒への手紙」

キリスト教学校の高校三年生に「聖書」の授業で語った内容を、さらに求道者や信徒の求めや疑問に応えられるよう分かりやすく練り直し、パウロのメッセージを現代に届ける。

B6判・予価10000円

ジョン・ディア著／志村真訳

平和の八福 「仮題」

「山上の説教」を平和創造の観点から読み直し、イエスの非暴力の足跡に従うための様々な手掛かりを考える。非暴力直接行動を貫いてきた著者ならではのイエスへの信徒と行動への招き。

四六判・予価1800円

● 12月に出版の本と雑誌

ただ一つの契約の

弧のもとで ユダヤ人問題の神学的省察

武田武長著



本書は、新約聖書の厳密な釈義と論争史の丹念な追跡によって、キリスト教社会に宿痼のように存在してきた反ユダヤ主義の誤謬を剔抉し、併せてイスラエルの民との契約に発する救済史の新たな捉え直しを迫る労作。

◆四六判・本体2400円

福音と世界

◆税込6600円

1月号 教育はいま——「知」の構造を問う

寄稿者：岡山茂、井野瀬久美恵、松田太樹、渡辺大輔

澤井留里、荒川朋子／安田真由子／有住航、村澤

真保呂、栗田隆子、金迅野、好井裕明、土井健司、

マニエル・ヤン、辻学、内田樹

●山下壮起さんと二木信さんの編著『ヒップホップ・アナムネーシス——ラップ・ミュージックの救済』の近刊案内をHPに掲載しています。ギャングスタ・ラップの宗教性を論じた山下さんの『ヒップホップ・レザレクション』が刊行された二〇一九年、小社では京都と東京で二度の刊行記念イベントをおこないましたが、東京での開催時に登壇されたのがヒップホップ好きなら誰もが知る音楽ライター二木さんでした。今回の『アナムネーシス』は、その後山下さんと二木さんが寄稿した『福音と世界』二〇二〇年六月号特集「ヒップホップの福音」をベースに、新規論考や講演、ブラック・ライヴズ・マターと共闘する黒人牧師の説教、ディスクガイド、そして日本で活躍するラッパー六名のロングインタビューを盛り込み、まさに『レザレクション』の後継作と呼べる内容になっています。ギリシャ語のアナムネーシスとは「想起」すること。階級、人種差別や性差別が交差する社会のなかで失われたものを想起し、何も欠けるところのない新しい世界をいまここに取り戻す、本書はそうしたヒップホップの霊的な力がみなぎるものになるはず。今後、情報は随時更新しますが、個人的には、DJの面々も参加す

るディスクガイド「救済のサウンドトラック」に要注目です。それぞれの筆致で、音楽を聴くという行為の深みを堪能させてくれる内容にご期待ください。(堀)

●二月一六日に、The Global Interfaith Commission on LGBT+ Lives という会が発足し、LGBT+の人々を含むすべての人々のいのちの神聖さと尊厳を支持する「宣言文」が出されました。ウェブサイトも立ち上がっていますのでご覧ください。(http://globalinterfaith.org)。

一四日の時点で、キリスト教、ユダヤ教、シーク教、仏教、イスラーム、ヒンドゥー教から三五か国、四〇〇名を超える聖職者、神学者たちが署名しています。性的少数者の尊厳をめぐる〈宗教間ネットワーク〉の端緒として注目すべき取り組みです。むろん宣言はこれらの「宗教」を代表する見解ではありません。むしろ各々の宗教の大勢においていまだ抑圧的な態度が取られている中から上げられた、一部の、しかし貴重な声です。(小林)



福音と世界

2021年
2

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・惑星の蜂起

- 蜂起の惑星の共鳴 —— 高祖若三郎
- 青空と文字のあいだで われわれの蜂起を肯定するために —— 白石嘉治
- 絶対的に栄光なき者たちの夢 —— 香港、蜂起と運動 —— 中西淳貴
- 息をする、立ち上がる —— 田崎英明
- 食べるための労働を問い直す「一九七〇〜八〇年代の沖縄青年労働者たちの「自立」と「相互扶助」 —— 上原こずえ
- 【小説】動物の蜂起 —— 早助よつ子

《書評》デヴィッド・グレーバー

『ブルシット・ジョブ』……岡部耕典

【注目の連載】

- ◆福音のフラグメント 2 ……有住航
- ◆霊性のエロジーあるいはアマミテリア 2 村澤眞保呂
- ◆I Say a Little Prayer 開かれる世界 11 ……栗田隆子
- ◆新約釈義 第三メモテ書 11 ……辻 学
- ◆くまさんのシネマめぐり 14 ……好井裕明
- ◆教父学入門 18 ……土井健司
- ◆バビロンの路上で 23 ……マニエル・ヤン
- ◆レヴィナスの時間論 70 (最終回) ……内田樹